科学研究費助成專業 研究成果報告書



平成 27 年 6 月 10 日現在

機関番号: 12602 研究種目: 基盤研究(C) 研究期間: 2012~2014

課題番号: 24592224

研究課題名(和文)骨格筋損傷に対する高気圧酸素治療の作用機序の解明

研究課題名(英文)The mechanism of recovery acceleration in injured skeletal muscle by hyperbaric

oxygen

研究代表者

柳下 和慶 (Yagishita, Kazuyoshi)

東京医科歯科大学・医学部附属病院・准教授

研究者番号:10359672

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文): 高気圧酸素治療(HBO)は肉離れに対し有効と期待されている.今回,ラット薬剤性骨格筋損傷モデルを用いて詳細に検討した. 無治療(NT)群,HBO群,常圧酸素群,高圧空気群の4群にて検討し,損傷後5,15日目におけるHBO群の再生筋線維横断面積が,他群に比べ有意に高値,損傷骨格筋の筋張力は損傷8日後にて,HBO群はNT群より有意に高値であった.また,損傷3,5日後のMyoDと IGF1のmRNA発現がHBO群で増加し,Pax7・MyoD二重陽性核が損傷3日後に,NT群に比べ有意に高値だった.HBOは筋衛星細胞の活性化時期を早め,骨格筋損傷からの早期回復に影響したと考えられた.

研究成果の概要(英文):We investigated whether HBO treatments promoted muscle regeneration and modulated muscle regulatory factor expression in a rat skeletal muscle injury model. Muscle injury was induced by injecting cardiotoxin (CTX) into the tibialis anterior (TA) muscles. As the HBO treatment, rats were placed in an animal chamber with 100% oxygen under 2.5 atmospheres absolute for 2 h/day, 5 days/wk for 2 wk. The cross-sectional areas and maximum force-producing capacity of the regenerating muscle fibers were increased by HBO treatment after injury. The mRNA expression of MyoD, and IGF-1 increased significantly in the HBO group at 3 and 5 days after injury. The number of Pax7(+)/MyoD(+) positive nuclei was increased by HBO treatment. In this study, we demonstrated that HBO treatment accelerated satellite cell and most increased by HBO treatment. proliferation and myofiber maturation in rat muscle that was injured by a CTX injection. These results suggest that HBO tréatment accelerates healing and functional récovery after muscle injury.

研究分野: 整形外科学

キーワード: 高気圧酸素 筋損傷 筋再生

1.研究開始当初の背景

外傷によって四肢への損傷が起こり、挫滅 が重度の場合は外科的修復のほか、創傷治癒 を促進する必要がある。この創傷治癒促進を 目的として期待されている治療方法の一つ に高気圧酸素治療 (HBO) がある。HBO は、高 気圧環境下で高濃度酸素を投与するにより、 血中溶解型酸素を増加させ、極めて高い動脈 血酸素分圧を作り出すによって効能を得る 非侵襲的な治療方法である。主に減圧症や低 酸素疾患への治療に使用されているが、近年 では、軟部組織、腱、筋損傷への治癒促進効 果が報告されており、創傷治癒にも促進的に 働くことがわかっている (Bennett HM et al. Cochrane Database Syst Rev. 2010)。最近 では、スポーツ外傷を対象に HBO を積極的に 施行しており、急性期足関節捻挫における腫 脹減少効果、下腿コンパートメント症候群に おける有効性や膝内側側副靱帯損傷におけ る早期競技復帰の可能性が報告されている。

スポーツ外傷での靭帯損傷、筋損傷に HBO がもたらす治癒促進効果のメカニズムとし ては、線維芽細胞活性の上昇、低酸素組織に おける血管新生作用の増加、瘢痕組織形成の 型 procollagen mRNA の発現増加な 促進、 どが報告されている。しかし、基礎研究分野 での論文報告数は極端に少なく、臨床応用を すすめていくためにも HBO の作用機序につい て基礎研究が必要である。代表および分担者 も臨床診療の中で HBO の有効性を実感してい ながら、創傷治癒促進を示す分子メカニズム 等については未解明の問題が多いことに危 機感を持っている。現在、HBO がもたらすス ポーツ外傷治癒促進効果のメカニズム解明 のため、整形外科学講座や各専門分野の研究 室と共同研究を行い、動物モデルを用いた HBO がもたらす有効性の分子メカニズムの解 明に積極的に取り組んでいる。

HBO 中は、通常と異なる高気圧酸素環境に 曝露されていることから骨格筋内での高濃 度酸素が創傷治癒過程に影響を与え、HBO に よって骨格筋内では様々な栄養因子の発現 誘導と骨格筋衛星細胞(Repairing skeletal muscle:regenerative potential of skeletal muscle stem cells. J Clin Invest 2010) の活性化が生じていると推察される。よって 実験的に骨格筋損傷モデルを用いてHBO 下 損傷筋治癒促進へと導く分子メカニズムを 種々の栄養因子の発現、骨格筋衛星細胞の増 殖・分化および骨格筋再生に焦点をあて解析 し、作用機序を明確にする必要がある。

2.研究の目的

近年、我々は臨床研究より、HBO が軟部組織、腱、筋のスポーツ外傷による損傷治癒を促進させる効果があることを示し、創傷治癒促進治療としてのHBOの有効性を報告している。臨床利用で有効性は示唆されていながら、現状では治癒促進効果を示す分子メカニズム等、明確な科学的根拠は示されていない。本研究目的は、HBO の創傷治癒促進効果を示

す科学的根拠を得るため、下肢骨格筋損傷モデルラットを用いた HBO の筋損傷回復促進効果の確認および筋再生促進効果を骨格筋衛星細胞への HBO の影響として解析し、HBO 下で外傷治癒促進へと導く分子メカニズムを明らかにすることである。

3. 研究の方法

1)薬剤性筋損傷モデルラットの作製

ラット後肢にカルディオトキシン (CTX)を使用して薬剤性筋損傷を作製する。このモデルは後藤ら(後藤勝正 他、筋損傷の回復を遅延・促進させる要因の再検討.青森県スポーツ医学研究会誌,18,37-42,2009.)が確立した損傷回復遅延モデルとなっており、廃用性筋萎縮を起こした筋線維では筋衛星細胞の減少が生じるため、筋損傷過程が著しく遅延することが報告されている。打撲性筋損傷モデルと比較して血管や神経損傷が少なく筋衛星細胞の動態を解析しやすい。

打撲性筋損傷モデルは、作製を試みたが、一 定の損傷形態が維持できず、本研究期間内で 遂行できなかった。

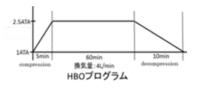
2) 特注の動物用高 気圧酸素治療チャン バー(右写真)を作 製し、HBO治療群の作 製をおこなった: HBO プログラム(右

図)に基づいて開始



小動物用HBO

した。 2.5 気圧、 100% 酸素、1 時間 1日1回を5 日間施行し た。



3) 組織学的評価

筋損傷部評価:損傷部を含む骨格筋組織切片 を作製し、HE 染色で好中球浸潤の状態や筋線 維面積 (CSA)を定量した。

筋衛星細胞の解析:免疫染色(Pax7、MyoD)によって筋衛星細胞の局在、数、分化の状態を評価した。細胞増殖活性を定量化するために給水ボトルに BrdU(0.8 mg/ml)を含んだ水を3日間飲水させて灌流固定を行い BrdU 抗体による免疫染色を行って定量した。

4) 損傷筋内での mRNA の発現: 骨格筋内での 筋細胞の分化・増殖に関与する栄養因子(NGF、 bFGF、VEGF、IGF、HGF 等)の mRNA 発現を定 量した。また、骨格筋内で筋再生、主に分化 に関与する因子(Myf5、MyoD、myogenin、Myf4 等)の mRNA 発現量を定量した。

5) 損傷後肢の機能回復

動作解析:損傷後、経時的にビデオ撮影を行い、動作解析ソフトを用いて足関節の動きを中心に評価した。

筋張力の評価:麻酔下に脛骨神経と下腿筋を露出させて遠位腱性部をトランスデューサーに固定して神経刺激による筋張力を定量化した。

4.研究成果

4-1. 薬剤性筋損傷モデルラットの作製

CTX (500 µL)をラット前脛骨筋に注入し、経時的に灌流固定を組織学的に評価した。注入翌日に広汎な筋壊死が認められ、8 日後には再生筋を認め、15 日後には成熟した筋線維が観察された(図1)。

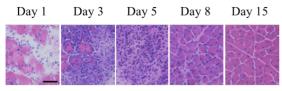
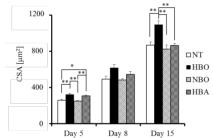


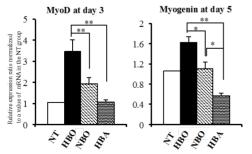
図 1: HE 染色像

4-2. HBO の有効性評価

筋損傷を作製したラットを治療なし(NT)群、HBO 群の二群に分け、HBO 群には動物用チャンバーを用いて、HBO 治療を、5 日間連続で2 週間行った。損傷後1,3,5,8,15 日目に損傷筋を摘出し、HE 染色による再生筋線維面積(CSA)の計測を行って、NT 群と HBO群を比較した。さらに加圧のない酸素投与(NBO)群、加圧のみで酸素のない(HBA)群を作製した。その結果、組織学的には損傷5日、15日のHBO群で有意にCSAの増加が得られた(図2:下グラフ)。



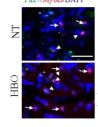
筋衛生細胞の活性化、増殖、融合、成熟といった過程の制御には、筋分化制御因子(muscle regularly factors; MRFs)と呼ばれる、helix-lop-helix 構造をもった転写因子群が決定的な役割を果たしている。経時的に mRNA 発現解析を行うと筋衛星細胞の分化因子である MyoD、myogenin の発現が HBO群で増加していた(図3:下グラフ)。さらに



栄養因子のひとつである IGF-1 の発現は損傷 5 日目の HBO 群で高値であった。

次に Pax7 と MyoD の免疫組織染色を行った (図 4)ところ、二重陽性核(Pax7+/MyoD+) が損傷後3 日目に、 MyoD 単陽性核

図 4: 免疫染色



(Pax7-/MyoD+)数が損 傷後5日目にHBO群で、 NT 群に比べ有意に高値 であった。しかし、損傷 後8日目では、HBO群の これら陽性核数はNT群 より低値を示していた (図5:下グラフ)。

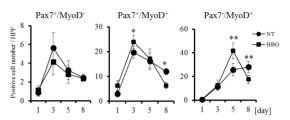
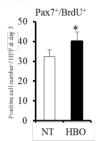


図 5: Pax7・MyoD の発現の割合

BrdU を用いた増殖活性の解析では、損傷3日のHBO群でBrdUの取り込みが多く(図6:右グラフ)Pax7の活性を HBO が誘導している可能性が示唆された。



損傷後肢の機能回復についてビデオによる歩行解析を行った。損傷翌日、後肢はある程度の協調運動を伴った歩行状態を示し、3日後には大きな差は認めなかった。一方、筋張力測定では、損傷8日後において、HBO群での損傷筋の筋張力が、NT群より有意に高値であった。

本研究成果によって、HBO による高圧・高 酸素曝露が骨格筋再生を促進させる効果を 明らかにすることができた。また、研究期間 内に HBO が筋衛星細胞の活性化時期を早める 効果を持つことを中心に論文発表 (Horie M, et al. Enhancement of satellite cell differentiation and functional recovery in injured skeletal muscle by hyperbaric oxygen treatment. J Appl Physiol 2014) を行った。ただし、研究計画にあった in vitro の系の確立は装置の問題もあって研究期間 内に実施できなかった。また、HBO 条件とし て 2.5 気圧、100%酸素、1 時間、1 日 1 回を 5 日間連続で施行したが、複数の気圧条件や回 数条件を設定することができず、今後の研究 課題として継続していく予定である。

5 . 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に は下線)

[雑誌論文](計14件)

Koga H, Muneta T, <u>Yagishita K,</u> Watanabe T, Mochizuki T, Horie M, Nakamura T, Otabe K, Sekiya I. Evaluation of a behind-remnant approach for femoral tunnel creation

in remnant-preserving double-bundle cruciate ligament anterior reconstruction - Comparison with a standard approach. Knee. 2015 Mar 17. S0968-0160(15)00050-2. doi: 10.1016/j.knee.2015.02.017. [Epub ahead of print] PubMed PMID: 25795546. 杳読有

Shimoda M, Enomoto M, Horie M,

Miyakawa S, Yagishita K. Effects of hyperbaric oxygen on muscle fatigue after maximal intermittent plantar flexion exercise. J Strength Cond Res. 2015 Mar 17. [Epub ahead of print] PubMed PMID: 25785701. 查読有 Koga H, Muneta T, Yagishita K, Watanabe T, Mochizuki T, Horie M, Nakamura T, Otabe K, Sekiya I. Effect posterolateral bundle graft fixation angles on clinical outcomes in double-bundle anterior cruciate ligament reconstruction: a randomized controlled trial. Am J Sports Med. 2015 May: 43(5):1157-64. 10.1177/0363546514567069. Epub 2015 Feb 2. PubMed PMID: 25646363. 查読有 Koga H, Muneta T, <u>Yagishita K</u>, Watanabe T, Mochizuki T, Horie M, Nakamura T, Otabe K, Sekiya I. Mid-to long-term results of single-bundle versus double-bundle anterior cruciate ligament reconstruction: randomized controlled trial. Arthroscopy. 2015 Jan; 31(1):69-76. 10.1016/i.arthro.2014.07.020. Epub 2014 Sep 18. PubMed PMID: 25242512. 査読有

Suzuki N, Yagishita K, Togawa S, Okazaki F, Shibayama M, Yamamoto K, Y. A case-control studv evaluating relative risk factors for decompression sickness: a research report. Undersea Hyperb Med. 2014 Nov-Dec;41(6):521-30. PubMed PMID: 25562944. 査読有

Muneta T. Koga H. Nakamura T. Horie M. Watanabe T, Yagishita K, Sekiya I. A new behind-remnant approach for remnant-preserving double-bundle anterior cruciate ligament reconstruction compared with standard approach. Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2014 Sep 11. [Epub ahead of print] PubMed PMID: 25209212. 查読有

Koga H, Muneta T, <u>Yagishita K</u>, Watanabe T, Mochizuki T, Horie M, Nakamura T, Sekiya I. Effect of Notchplasty in Anatomic Double-Bundle Anterior Cruciate Ligament

Reconstruction. Am J Sports Med. 2014 Jun 2;42(8):1813-1821. [Epub ahead of printl PubMed PMID: 24890781. 查読有 堀江 正樹, 榎本 光裕, 下田 学, 柳下 和慶 骨格筋損傷に対する高気圧酸素 治療 効果とその分子メカニズム 日 本整形外科スポーツ医学会雑誌 (1340-8577)34 巻 Page18-22(2014.03) 查読無 Horie M, Enomoto M, Shimoda M, Okawa Miyakawa S, Α. Yaqishita K. Enhancement of satellite differentiation and functional recovery in injured skeletal muscle by hyperbaric oxygen treatment. J Appl Physiol (1985).2014 Jan 15:116(2):149-55. doi: 10.1152/japplphysiol.00235.2013. Epub 2013 Dec 12. PubMed PMID:

24336879. 査読有

Koga H, Muneta T, Yagishita K, Watanabe T, Mochizuki T, Horie M, Nakamura T, Sekiya I. Effect of femoral tunnel position on graft tension curves and knee stability in double-bundle anatomic anterior cruciate ligament reconstruction. Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. Nov; 22(11):2811-20. 10.1007/s00167-013-2693-7. Epub 2013 Sep 24. PubMed PMID: 24061720. 查読

Aizawa J, Masuda T, Hyodo K, Jinno T, Yagishita K, Nakamaru K, Koyama T, Morita S. Ranges of active joint motion for the shoulder, elbow, and wrist in healthy adults. Disabil Rehabil. 2013 Aug; 35(16): 1342-9. doi: 10.3109/09638288.2012.731133. PubMed PMID: 23826904. 查読有

Koga H, Muneta T, <u>Yagishita K,</u> Watanabe T, Mochizuki T, Horie M, Nakamura T, Okawa A, Sekiya I. Arthroscopic centralization of an extruded lateral meniscus. Arthrosc Tech. 2012 Oct 22:1(2):e209-12. doi: 10.1016/j.eats.2012.08.001. Print 2012 Dec. PubMed PMID: 23766997; PubMed Central PMCID: PMC3678624. 查 読有

Yagishita K. [Proposal of multicenter study design of hyperbaric oxygen therapy for acute carbon monoxide poisoning]. Chudoku Kenkyu. 2012 Dec;25(4):316-8. Review. Japanese. PubMed PMID: 23379221. 查読無 Koga H, Muneta T, Yagishita K, Ju YJ, Mochizuki T, Horie M, Nakamura T, Sekiya I. Effect of Okawa A, posterolateral bundle graft fixation

angles on graft tension curves and load sharing in double-bundle anterior cruciate ligament reconstruction using a transtibial drilling technique. Arthroscopy. 2013 Mar;29(3):529-38. doi: 10.1016/j.arthro.2012.10.018. Epub 2013 Jan 20. PubMed PMID: 23343714. 查読有

[学会発表](計16件)

Oyaizu T, <u>Enomoto M</u>, Kojima Y, <u>Yagishita K</u>. Hyperbaric oxygen therapy reduce calf volume at the injury site in the rat muscle contusion model.. 18th International Congress on Hyperbaric Medicine 2014.12.4 Buenos Ares, Argentina 小柳津卓哉, <u>榎本光裕</u>, <u>柳下和慶</u>. ラット後肢圧挫損傷後にマイクロ CT を用いた腫脹の定量的評価. 第 49 回日本高気圧環境・潜水医学会学術総会 2014.11.8 鹿児島市鹿児島

柳下和慶、榎本光裕、加藤剛、堀江正樹、小柳津卓哉、小島泰、古賀英之、眞野喜洋 . Quantitative Evaluation for Effects of Hyperbaric Oxygen Treatment on Patients with Ankle Sprain at an Acute Phase. Undersea and Hyperbaric Medical Society Annual Scientific Meeting 2014 2014.06.23 セントルイス・米国

Oyaizu T, Enomoto M, Kojima Y, Yagishita K. A case of intrahepatic portal venous gas with systematic gas findings by CT in decompression illness. the 47th Undersea & Dyperbaric Medical Society (UHMS) Annual Scientific Meeting 2014.06.23 St. Louis, USA

柳下和慶、榎本光裕、堀江正樹 . 高気圧酸素治療を用いた骨格筋損傷の治癒促進 . 第 24 回日本臨床スポーツ医学会 . スポーツ損傷の最新治療 2013 . (2013 年10月25日 熊本市熊本)

柳下和慶、 榎本光裕、 堀江正樹、 下田学、 相澤純也 . スポーツ軟部組織外傷における高気圧酸素治療 . 第 159 回日本体力医 学会関東地方会(2013 年 12 月 7 日 調 布市東京)

柳下和慶 . スポーツ領域での高気圧酸素治療の活用 - 骨格筋損傷治療とコンディショニング目的使用について - .第 21 回よこはまスポーツ整形外科フォーラム.(2013年6月2日 横浜市神奈川)柳下和慶 . スポーツ領域での高圧酸素治療の治療効果. 日本臨床スポーツ医学会主催・学生のためのスポーツ医学セミナー.(2013年10月5日 文京区東京)柳下和慶、榎本光裕、堀江正樹、下田学、小島泰史、外川誠一郎、加藤剛、相澤純

也、眞野喜洋.ロンドンオリンピックにおける高気圧酸素治療の取り組み.第47回日本高気圧環境・潜水医学会学術総会. (2012年11月16日 札幌市北海道) Yagishita K, Enomoto M, Horie M, Shimoda M, Mano Y. Increase of muscle regeneration by hyperbaric oxygen treatment in a rat model of skeletal muscle injury. The 4th Conference on Diving Physiology, Technology, and Hyperbaric Medicine. (2012年11月2日 文京区東京)

柳下和慶、榎本光裕、堀江正樹、下田学. 筋損傷および靭帯損傷に対する高気圧 酸素治療.第4回JOSKAS.(2012年7月 19日 宜野湾市沖縄)

<u>柳下和慶、榎本光裕、堀江正樹、下田学.</u> 高気圧酸素による外傷からの早期復帰 とコンディショニング.第8回日本疲労 学会・学術集会.(2012年6月3日 調 布市東京)

柳下和慶.高気圧酸素治療のスポーツ外傷・障害への適応.第38回日本整形外科スポーツ医学会学術集会.(2012年9月14日 横浜市神奈川)

柳下和慶 . 高気圧酸素の効果と適応およびメカニズム . 第 23 回日本臨床スポーツ医学会学術集会 . (2012 年 11 月 4 日横浜市神奈川)

柳下和慶.スポーツ領域における高気圧酸素の魅力.第47回日本高気圧環境・潜水医学会学術総会市民公開講座.(2012年11月17日 札幌市北海道)柳下和慶.整形外科領域における高気圧酸素治療. スポーツ外傷を中心に .第7回西多摩・痛みのセミナー.(2012年11月29日 立川市東京)

[図書](計 4 件)

<u>柳下 和慶</u>【スポーツ障害-最新の知識と 治療法-】 (Part5)スポーツ障害に対す る最新の治療の試み 筋損傷に対する 高気圧酸素治療(解説/特集) Bone Joint Nerve (2186-1110)4 巻 4 号 Page727-733(2014.10)

<u>柳下 和慶</u>急性期の処置と治療 高気 圧酸素治療(解説) 救急・集中治療医学 レ ビ ュ ー 2014-'15 Page121-126(2014.02)

柳下 和慶【スポーツ外傷・障害に対する低侵襲治療の最前線】 スポーツ外傷・障害に対する高気圧酸素治療の適応と実際(解説/特集)_整形外科最小侵襲手術ジャーナル (1342-3991)69 号 Page27-34(2013.12)

<u>柳下</u>和慶 酸素治療 (特集 膝靱帯損傷の治療およびリハビリテーション) MEDICAL REHABILITATION (1346-0773)154 号 Page65-69(2013.02)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)取得状況(計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等

東京医科歯科大学高気圧治療部 http://www.tmd.ac.jp/med/hbo7/

東京医科歯科大学スポーツ医学診療センタ

_

http://www.tmdu-sports.jp/

6.研究組織

(1)研究代表者

柳下和慶 (YAGISHITA KAZUYOSHI)

東京医科歯大学・医学部附属病院・准教授

研究者番号:10359672

(2)研究分担者

榎本 光裕 (ENOMOTO MITSUHIRO)

東京医科歯大学・医学部附属病院・講師

研究者番号:90451971

加藤 剛 (KATO TSUYOSHI)

東京医科歯大学・医学部附属病院・助教

研究者番号: 80447490